

令和7年度鹿児島県中学校体育大会 地域クラブ活動の参加特例 各競技部細則まとめ（令和7年2月21日現在）

◎ 本細則は、「令和7年度全国中学校体育大会 地域クラブ活動の参加特例における各競技部細則」（令和6年10月11日付け文書）に準じて作成しています。

◎ 九州中学校体育連盟開催基準「特別規程」及び鹿児島県中学校体育連盟開催基準「特別規程」により、他県の中総体へ参加することはできません。
また、同一団体から複数チームの参加はできません。

	競技名	地域クラブ活動の参加		団体（リレー）出場の条件	地域クラブ活動の 協会・連盟登録の義務	指導者の公認 資格の有無	その他の条件
		個人	団体（リレー）				
1	陸上	○	△	リレー・駅伝は、「地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」、または、「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」で参加することができる。ただし、複数の中学校から選手を選抜等によって編成されたチームは除く。または、登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合に限り、地域クラブ活動の所属で参加することができる。	(公財)日本陸上競技連盟への団体登録	どちらでも○	複数の種目（リレーを含む）に出場する場合、種目によって異なる所属から出場することはできない。
	駅伝		△				複数の所属から出場することはできない。
2	水泳	○	○		(公財)日本水泳連盟への団体登録	どちらでも○	
3	バスケットボール		△	「地域移行モデル地区や自治体主体で地域移行を進めるために設置されている」「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」ただし、対象の地域クラブ活動は単独又は複数の中学校単位で編成されており、日常的に活動が持続されている場合に限る。なお、複数の中学校から選手を選抜し、編成された地域クラブ活動の出場は認めない。	中央競技団体もしくは各県競技団体に登録	どちらでも○	
4	サッカー		△	U15チームがクラブユース連盟に加盟していないこと。（クラブユース連盟に所属しているクラブ内からは、U15チーム及びセカンドチームも参加できない）	●JFAへのチーム登録	どちらでも○	
5	ハンドボール		○		日本ハンドボール協会へのチーム・個人登録	どちらでも○	●日本ハンドボール協会が主催する全国クラブ大会および予選大会（地区大会含む）に参加した場合は中学校体育連盟が主催する全国中学校体育大会および予選大会（地区大会含む）への出場は認めない。

	競技名	地域クラブ活動の参加 ○参加を認める △条件付きで参加を認める		団体（リレ） 出場の条件	地域クラブ活動の 協会・連盟登録の義務	指導者の公認 資格の有無	その他の条件
		個人	団体（リレ）				
6	軟式野球	/		○	各県軟式野球連盟への加盟	①日本スポーツ協会公認コーチ1（軟式野球） ②日本スポーツ協会公認コーチ3（軟式野球） ③BFJ公認野球指導者基礎Ⅰ（U15） ※監督の保有を必須とするが、保有していない場合には、コーチ（日常的に指導に関わりメンバー登録されている者）のうち最低1名の保有を必須とする。	●大会運営、審判員派遣の依頼に対応できる人員を確保している。 ●審判員については、「一般財団法人全日本野球協会アマチュア野球規則委員会公認3級審判員」以上の保有を必須とする。
7	体操競技	○	△	団体参加の場合は「地域移行モデル地区や自治体主体で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」、「地域移行の受け皿となっているクラブ活動」又はすべての選手が同一校に在籍していること。	各県体操協会への加盟	どちらでも○	●各県にブロック大会団体出場枠が複数与えられている場合、少なくとも1枠は学校登録団体とする。学校登録団体がない場合には地域クラブ活動登録団体から補充する。（ブロック大会も同様） ●地域クラブ活動に所属していない同一校の他の生徒が学校で団体を組み大会に参加することができる。ただし、同一校生徒により構成された2つの団体のうち上位団体のみがブロック大会に進むことができる。 ●一緒に活動する団体を複数の地域クラブ活動として各県中体連に登録することはできない。 ●複数の地域クラブ活動が一つの団体として各地区中体連に登録することはできない。
8	新体操 （女子）	○	△	団体参加の場合は「地域移行モデル地区や自治体主体で地域移行を進めるために発足した地域移行クラブ活動」、「地域移行の受け皿となっているクラブ団体等」又はすべての選手が同一校に在籍していること	日本体操協会の所属団体登録	日本体操協会への指導者登録	●予選大会のエントリーは、監督及び選手は1人につき一所属とする。 ●同所属からのエントリーのみ個人、団体の両方に出場することができる。 ●監督は日本体操協会への登録を済ませている者で、他の所属の監督としては予選大会に加できない。 ●団体の出場については、各所属から1チームのみとする。同一中学校からの部活動とクラブチームの2チーム出場は、同じ学校から2チームとみなすことができるため出場は不可とする。
	新体操 （男子）	○	○	団体選手は全員が同一学校に在籍しなくてもよいとし、地域クラブ単位の出場が可能。		日本体操協会への指導者登録	
9	バレーボール	/		○	JVA-MRSへのチーム・個人登録	JSP0公認指導者資格（成人） ※R7.3.31までは取得期間	●募集要項やホームページ等で公募していること。 ●年間を通じて、日常持続的（週単位）に練習している場所と所在地が一致していること。 ●チームや団体として規約があること。 ●各種大会に大会役員として派遣できる指導者がいること。 ●全ての選手・スタッフは、各県大会予選より全国大会まで、一人同一のチーム登録とし、複数のチームから出場することはできない。

競技名	地域クラブ活動の参加 ○参加を認める △条件付きで参加を認める		団体（リレ） 出場の条件	地域クラブ活動の 協会・連盟登録の義務	指導者の公認 資格の有無	その他の条件
	個人	団体（リレ）				
ソフトテニス	○	○		中央もしくは各県競技団体への登録	(公財)日本スポーツ協会公認「コーチ1以上」 ※ただし、当該年度は取得中でも可	●参加する地域クラブ活動においては、本大会に出場するために設立されたものではなく、「地域」における継続的なスポーツ活動を確保しようとする目的のものであること。
11 卓球	○	△	団体については、「地域移行モデル地区や自治体主体で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」又は「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動等」地域移行された地域クラブ活動かどうかの判断は各県中体連に任せる。	日本卓球協会、各県卓球連盟、各県中体連の登録及び年会費の支払いを行うこと。	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（卓球公認コーチ1以上）を取得していること	代表者、参加要件を満たすために在籍している日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（卓球公認コーチ1以上）及び選手は、他の地域クラブ活動に重複して登録できない。
12 バドミントン	○	○		日本バドミントン協会・各県協会会員登録及び年会費支払いを行うこと。	○日本バドミントン協会公認審判員資格（3級以上）を取得していること。（取得が困難な場合は、各県の審判講習会に参加すること） ○R7年度末までに日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（バドミントン）資格所持者が最低1名は所属していること※R8から必ず資格所持者が最低1名は所属していること。	●シングルスとダブルスを兼ねて出場することはできない。 ●代表者・事務担当者・指導者は、成人（20歳以上）とする。 ●1つの活動母体から登録できるのは1チームのみとする
13 ソフトボール	/		○	日本ソフトボール協会へのチーム登録	どちらでも○	
14 柔道	○	○	●チームとして「団体登録」を済ませている。 →団体戦に出場可 ●競技者として「競技者登録」を済ませている。 →個人戦に出場可	各都道府県柔道連盟（協会）を通して全柔連に加盟、登録を済ませている。	大会の引率、監督、帯同コーチは、全柔連公認指導者資格を有していなければならない。	●同一年度中は、最初に参加した所属チームからの変更は認めない。 ●柔道修業期間を6か月以上経過した中学生のみ、大会に参加することができる。
15 剣道	○	△	団体戦については、地域移行モデル地区や、自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動、地域移行の受け皿となっているクラブ活動とする。	中央競技団体もしくは各県競技団体に登録	どちらでも○	●3年間同一団体から出場することが望ましい。 ●団体戦・個人戦ともに同一団体からの出場とする。
16 相撲	○	○		中央競技団体もしくは各県競技団体に登録	どちらでも○	
17 空手道	○	○		各県空手道連盟に登録	監督は、(公財)全日本空手道連盟に登録している会員であること。	
18 テニス	シングルス ○ ダブルス △	△	団体及びダブルスは、登録メンバーが同一学校に限り、地域スポーツ団体所属での参加が可能	中央競技団体もしくは各県競技団体に登録	どちらでも○	●シングルス・ダブルスを兼ねて出場することはできない。

【補足説明】

●地域移行モデル地区や自治体主体で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動

⇒運動部活動の地域移行等に関する実線研究・実証事業の対象地区が該当する。ただし、地区は該当していても該当部活動が対象になっていない地区は該当しない。

これとは別に、各市町村が主導で地域移行を進めている場合にも該当する。

●地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動

⇒単独校での活動が困難であるなどの理由で日常的に活動が持続されており、複数校の生徒が参加する形態で活動する団体を意味する。

あくまで地域移行の受け皿が主目的の団体を対象としているため、複数校から一部の選手のみ選抜された形でのスポーツ団体を意味するものではない。学校単位での参加とする。

●陸上競技（リレー）及び駅伝競走の「複数の中学校から選手を選抜等によって編成されたチームは除く」の解釈

⇒リレーについて、学校に部活動の設置があり単独校でチーム編成ができる場合は、その中学校の生徒を含む地域クラブ活動のリレー参加は不可となる。

⇒駅伝について、在籍している学校が単独校で参加する場合や学校に部活動の設置があり単独校でチーム編成ができる場合は、その中学校の生徒を含む地域クラブ活動の駅伝参加は不可となる。

⇒学校に部活動のない複数校の生徒で構成された「地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動」、

または、「地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動」は複数校生徒で編成されたチームによるリレーや駅伝への参加は可能である。

【リレー（駅伝）に参加できる地域クラブチーム】

①：地域移行モデル地区や自治体主導で地域移行を進めるために発足した地域クラブ活動

②：地域移行の受け皿となっている地域クラブ活動

※当該クラブが①②のいずれかに該当するか否かの判断は各都道府県中体連の判断基準に拠る

※①②のいずれも「複数の中学校から選手を選抜等によって編成されたチーム」は除く

<①②で認められるケース>

ア：リレーの登録メンバーの学校には部活動の設置があるが部員が4人未満の場合、もしくは4人以上の部員がいる学校の生徒と部員が4人未満の学校の生徒で編成する場合

イ：部活動の設置がない学校に在籍する生徒でリレーメンバーを編成する場合

ウ：アとイの生徒でリレーメンバーを編成する場合

エ：リレーの登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合 <①②で認められないケース>（上記下線部に該当するケース）

ア：「部活動の設置があり単独校でリレーのチーム編成ができる学校に在籍する生徒」を含んだ編成の場合

※リレーのチーム編成ができるか否かの判断は「部員が4人以上か4人未満か」に拠る

※ただし、「部員が4人以上の学校の生徒」と「部員が4人未満の学校の生徒（部活動がない学校の生徒）」で編成する場合は<認められるケース：ア>に含まれる

③：①②以外の地域クラブ活動

※③の場合はリレーの登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合に限り認める

【駅伝】

上記の「リレー」を「駅伝」に置き換え、「4人」を「6人（男子）、5人（女子）」に置き換える。

●バスケットボールの「中学校単位」の解釈

⇒地域クラブ活動の場合、中体連主催大会バスケットボール競技大会に参加を希望する中学校の生徒全員が一つの所属先にいることを示している。

チームを構成する学校数に制限は設けないが、大会に参加を希望する生徒全員がそのチームに所属していることが条件である。

つまり、バスケットボール部がない学校毎に所属する地域クラブ活動の一つにまとめる必要がある。